様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年 １０ 月 ２２ 日現在

機関番号：３５３０５
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2015
課題番号：２５７７０１０１

研究課題名（和文）中世前期における記録文学の生成と展開

研究課題名（英文）Deployment and generation of record literature in Japan the Middle Ages the previous fiscal year

研究代表者
木下　華子（Kinoshita, Hanako）

ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授

研究者番号：１０６０９６０５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究によって、研究発表1件、図書（単著）1点、図書（共著）1点、論文（単著）5点、論文（共著）1点を公表した。本研究では、中世前期（平安時代末～鎌倉時代）における、記録と文学の関係及び記録が文学となるプロセスや歴史的必然性について、『方丈記』『発心集』『源家長日記』などの作品を手掛かりとして、分析・論究を行ってきた。事実の「記録」とされてきたものに、虚構である「文学」の視点を導入して分析することで、その「記録」が環境に要請される目的のために様々な趣向を凝らし、表現を選び、意図的な操作を行っていることを解明することができた。文学・歴史双方の分野に対して、新たな知見を提出できたと考えている。

研究成果の概要（英文）：By this study, I announced research presentations 1, books (single Author) 1 point, books (co-author) 1 point, paper (single Author) 5 points, paper (co-authored) 1 point. I studied the relationship between a record and literature, and the process by which a record will be literature, such as "Hojoki," "Hosshinshu," "Minamoto Ienaga Nikki" as a clue,in the Middle Ages the previous fiscal year (the end of Heian period between the Kamakura period). I elucidated that the "record" in fact is operated by the author in historical environment.It becomes possible by introducing a perspective of a fictional "literature". I believe that could submit the new findings for the literature and history research.

研究分野：人文学

キーワード：中世文学　和歌文学　方丈記　発心集　無名抄　源家長日記　鴨長明　後鳥羽院

１．研究開始当初の背景

院政期から鎌倉時代という中世前期に生み出された作品群を見渡すと、既存のジャンルに則りながらも、その領域を超える性質を持つ多くの散文作品が生み出されている。その一つに、男性貴族による仮名散文の「記」が挙げられよう。本来、「記」とは何らかのテーマを叙事的に述べる作品であり、それは平安時代を通して漢文体で記されたものであった。しかし、平安時代末期、源通親による『高倉院厳島御幸記』『高倉院昇霞記』、藤原隆房の『安元御賀記』といった仮名を用いた和文体による「記」が次々と生み出される。これらは、漢文の領域の作品を和文体で記すという「漢」と「和」の領域を乗りこえた作品であった。このような、本来異質であるものが出会い、互いの相克を乗り越えて、新しい領域を切り開くという性質に着目すると、鎌倉時代の初期に成立した鴨長明の『方丈記』、「紀行文」の嚆矢となった『海道記』などが視野に入ってくる。また、ジャンルとしては「日記」であるが、漢文日記を記す男性貴族であるはずの源家長が、和文体で記した『源家長日記』も同様であろう。

これらの作品群は、既存の文学史においてはそれぞれ異なるジャンルに収められているが、本来漢文の領域に位置付けられるものが和文体で記されるという形態的特徴において一致を見る。漢文で綴られるべき作品が和文体の散文で書かれるという形態上の特徴と、特定の場や出来事についての叙事的記録という叙述姿勢上の特徴を兼ね備えるという共通項を持つ。これらの作品群は、中世前期に新たに登場した「記録を作品構想の核とする文学」と考えることができる。これを「記録文学」と定義し、新たな文学史の枠組みの構築と既存のジャンルを横断する多角的な分析・検討の必要があると考える。

２．研究の目的

日本文学史においては、院政期から鎌倉時代にかけて、特定の場・行程や自らの体験・見聞を記録するスタイルの作品が頻出する特徴がある。従来は、「記」「日記」「紀行文」等のジャンルに収められ、相互の関連性が論じられることはなかった。しかし、表現行為とそれを支える意識に着目すると、各作品は既存のジャンルの型に則りながらも記録という共通の目的と体裁を持ち、仮名散文による新しい表現形態を造り上げたことがわかる。このような性質を持つ作品群を「記録文学」と定義し、それが生成し展開する様相を解明したい。この解明はさらに、記録という人間の普遍的な行為を基軸として文学史を再構築し、日本中世文学の本質に関わる新たな知見と枠組みの提出を可能にするものと考えている。

３．研究の方法

研究方法は以下の 2 点から成る。

【１】特定の場や出来事とそれを導く行程に関する記録文学の研究。

男性貴族による和文体の記である『高倉院厳島御幸記』『高倉院昇霞記』『安元御賀記』と、同様の特徴を持つ日記『源家長日記』について表現分析を行い、作品としての方法を明らかにする。

【２】自らの体験・見聞に関する記録文学の研究。

和文体の記である鴨長明の『方丈記』について、和漢混淆文という文体的観点からの分析を行い、和漢混淆文がどのような表現方法を持ち、いかなる表現世界を達成するのかについて明らかにする。

また、長明の著作『無名抄』『発心集』には、自らの体験・見聞をもとにした記事が多く見出される。同時代資料を渉猟することで、実際の体験・事実がどのように書き記され、文学へと変容していくのか、そのプロセスと必然性とを解明する。

４．研究成果

【１】特定の場や出来事とそれを導く行程に関する記録文学の研究については、『高倉院厳島御幸記』と『源家長日記』については、全注釈を作成した。『源家長日記』については、私家版であるが、『源家長日記試解』という形で前半部の注釈書を作成し、関係各所に配布している。これらの成果をもとに、論文「『源家長日記』の方法と始発記の後鳥羽院像」（⑥）を執筆した。当該論文は、『新古今和歌集』の成立過程や後鳥羽院歌壇の様相をうかがう重要な資料として位置づけられてきた『源家長日記』について表現分析を行い、作品の性質・文学史的意義を考察するものである。従来、後鳥羽院歌壇における重要な和歌の催しに関する記述で筆者の記憶違いや誤りと考えられてきたものは、同時代に共有された表現史をもとにした意図的な虚構である。また、そのような操作が行われた必然性は、治天の君としての後鳥羽院像の造型と院の聖代を言祝ごうとする目論見にあることを明らかにする。後鳥羽院歌壇の「記録」として扱われてきた『源家長日記』を文学的手法で読み解き、表現分析を行うことで、環境的必然性が文学（虚構の物語）としての『源家長日記』を作り上げていることを解明したものである。

【２】自らの体験・見聞に関する記録文学の研究については、特に、鴨長明の『方丈記』『発心集』を中心として研究を進めた。『方丈記』については、論文「『方丈記』論――作品成立の場と享受圏をめぐって――」（②）において、『方丈記』読者像（長明が直接に意識した読者）の具体的な立ち上げを試みた。同時代における草庵の広さや草庵での独居に関する意識と『方丈記』を引き比べること

で、長明が自らの周囲に存在する遁世者たちに対して十分に意識的であり、そのような自覚と自らを相対化する視線が、作品の表現を導き出していることを明らかにした。すなわち、『方丈記』の表現は、自らの草庵体験を事実として記録するだけのものではなく、読者対象を意識して、最大限の表現効果を持つように仕組まれたものなのである。つまり、『方丈記』とは同時代の読者によって規定され、生み出された作品だと言うことができるが、そのようなことを可能にする場として日野家と法界寺の文化圏に着目し、長期的な追跡を行うことで、読者としての日野家・学術環境としての法界寺文庫の可能性にも踏み込んだ。

また、論文「『方丈記』の辻風」(④)では、治承 4 年（1180）4 月に平安京を襲った辻風（＝竜巻・旋風）を取り上げ、『方丈記』中における風の表現分析から、荒ぶる風が平安から鎌倉時代へ移り変わる激動の時期を象徴するものであることを解き明かす。ここでも、事実としての「辻風」が、時代を表すための象徴として選ばれ、物理的な災害以上の意味を持たされていたことがわかる。

『発心集』は説話集であるが、説話は、「事実・ないしは事実と思われていること」を対象とするものであるため、歴史書や貴族日記に淵源を持つものも多い。従って、事実がどのように文学となっていくのかを考える本研究の素材として相応しいと判断した。また、説話の対象が上述のものであるため、同一の話が様々な説話集に収載されることになり、同話や類話を比較することで、ある説話集の意図や特徴を読み解くことが可能となる。それは、事実が文学となるに際し、どのような意識が働くのかということを端的に表すものとなろう。

研究成果としては、まず、論文「『発心集』の泣不動説話」(③)において、『発心集』板本・神宮文庫本に載る泣不動説話を取り上げて分析し、『発心集』の意図を明らかにした。泣不動説話の文学史の中に『発心集』を位置付けると、それ以前のものに比べ、証空母子の情愛に説話の焦点が結ばれていることが明らかであり、それは筆者長明の意図的な改変あるいは選択だったと考えられる。さらに、このような形の泣不動説話が成立する背景については、同時代に一世を風靡した安居院流の唱導が母の恩愛を重視する説法を行っていたこととの関連を指摘したものである。ここでも、同時代の環境と『発心集』の表現・話の改変に強い結びつきが見られた。

また、研究発表「『発心集』蓮華城入水説話をめぐって」(⑦)では、『発心集』板本・神宮文庫本に載る「蓮華城」という出家者の入水について、古記録『顕広王記』と歴史書『百練抄』の記事との比較分析を行い、史実上の蓮華城入水がいかにして説話化・文学化されるのかを追った。蓮華城の入水は安元 2 年（1176）8 月 15 日に敢行されたが、当時、かなり衝撃的な事件として人々に記憶された集団入水であったにも関わらず、『発心集』はそれを意図的に捨象し、入水往生失敗譚としての再構成を行っている。本研究の核となるテーマ「記録」と「文学」の関係に直結する素材であり、事実や事件が文学となるに際し、どのような焦点化・捨象が行われるのか、それがどのような意図・必然性に基づくものなのかという現場を明らかにしたものである。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　6 件）

①木下華子，鴨長明の和歌観―『無名抄』「式部赤染勝劣事」「近代歌躰」から―，『中世文学』58 号，pp.53-63，2013 年 6 月，査読有

②木下華子，『方丈記』論―作品成立の場と享受圏をめぐって―，　荒木浩編『中世の随筆　成立・展開と文体』(竹林舎)，pp.141-165，2014 年 8 月，招待原稿

③木下華子，『発心集』の泣不動説話，『清心語文』16 号，pp 1-19，2014 年 9 月

④木下華子，『方丈記』の辻風，鈴木健一編『天空の文学史　雲・雪・風・雨』，pp105-125 2015 年 2 月，招待原稿

⑤木下華子・新美哲彦，升底切『金葉和歌集』零本についての書誌的報告，『ノートルダム清心女子大学紀要　日本語・日本文学編』39-1 号，pp.12-24 ，2015 年 3 月，　査読有

⑥木下華子，『源家長日記』の方法と始発記の後鳥羽院像，『国語と国文学』93-4 号，pp.53-69 ,2016 年 4 月,査読有

〔学会発表〕（計　1 件）

⑦木下華子，『発心集』蓮華城入水説話をめぐって，国際日本文化研究センター共同研究会「説話文学と歴史史料の間に」，2016 年 3 月 6 日

〔図書〕（計　2 件）

⑧木下華子他 13 名，鈴木健一編『千年の百冊』，小学館，2013 年 4 月

⑨木下華子，『鴨長明研究――表現の基層へ』（勉誠出版），全 424p，2015 年 3 月

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
⑩木下華子，祖母のおまじない――「二万」の歌と「あぶらんけんそわか」――，ノートルダム清心女子大学日本語日本文学科リレーエッセイ（第 118 回）　2013 年 8 月
http://www.ndsu.ac.jp/department/japanese/blog/2013/08/118.html

⑪木下華子，N.D.S.U.Collection［20］正宗敦夫文庫・伝為家筆『金葉和歌集』，『ノートルダム清心女子大学 Bulletin』182 号，2013 年 10 月
http://lib.ndsu.ac.jp/www/collection/images/NDSUcollection_JPG/NDSUcollection_20.jpg

⑫木下華子，N.D.S.U.Collection［23］正宗敦夫文庫・伝為忠筆『金葉和歌集』，『ノートルダム清心女子大学 Bulletin』185 号，2014 年 7 月
http://lib.ndsu.ac.jp/www/collection/images/NDSUcollection_JPG/NDSUcollection_23.jpg

⑬木下華子，「ハッピーアイスクリーム！」を知っていますか？，ノートルダム清心女子大学日本語日本文学科リレーエッセイ（第 130 回）　2014 年 8 月
http://www.ndsu.ac.jp/department/japanese/blog/2014/08/130.html

⑭木下華子，N.D.S.U.Collection［28］正宗敦夫文庫・伝山崎宗鑑筆『金葉和歌集』，『ノートルダム清心女子大学 Bulletin』190 号，2015 年 10 月
http://lib.ndsu.ac.jp/www/collection/images/NDSUcollection_JPG/NDSUcollection_28.jpg

⑮木下華子，「おもやい」考，ノートルダム清心女子大学日本語日本文学科リレーエッセイ（第 145 回），2015 年 11 月
http://www.ndsu.ac.jp/department/japanese/blog/2015/11/145.html

６．研究組織
(1)研究代表者
木下　華子（Kinoshita Hanako）
ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授
研究者番号：10609605

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：